

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

K 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2016年7月 No.22

かめのり地球青少年サミット 2016 [KEYS2016]



今号の内容

- ◇ 高校生交換留学プログラム
- ◇ 大学院留学アジア奨学生
- ◇ 日本高校生「ふれあいの場」訪中事業
- ◇ ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム
- ◇ かめのり地球青少年サミット 2016
- ◇ 講演会
- ◇ 第10回かめのり賞 募集案内
- ◇ かめのりコミュニティ仲間からの便り(特集号)

高校生交換留学プログラム

アジアから高校生来日

本年3月23日(水)、中国、韓国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイの6カ国から8名の高校生が来日しました。来日後の懇談会では、かめのり財団について、奨学生としての心構えについて説明を受け、財団の活動への理解を深めました。また、自己紹介とともに留学の目標を発表し、これから始まる日本での留学生活への意気込みを共有しました。

新潟から長崎と日本の各地域で、ホストファミリーと一緒に生活をしながら、高校へ通っています。言葉の壁や習慣の違いに戸惑い悩みながらも、学校では友だちも増え、周囲の方々に支えられながら、異文化での生活を楽しんでいきます。

【留学の目標は？】

「たくさんの友達を作り、日本語を自由に話せるようになりたい。留学を楽しみたい！」

「自分に自信を持ち、人を勇気づけられるような人間になりたい」

「将来のリーダーとなれるよう、自分の可能性を伸ばしたい」

「知識を増やし、他の文化を持つ人との架け橋になることで、インドネシアの将来のリーダーになりたい」

「日本とフィリピンの平和の架け橋になりたい」

「日本とタイのフレンドシップをよりよくしたい」



来日後の懇談会

大学院留学アジア奨学生

新たに3名が奨学生の仲間入り

平成28(2016)年度採用の奨学生が決定し、4月2日(土)、新奨学生の証書授与式が行われるとともに、今年度の修了生を送り出しました。懇談会では大学院での研究の話にとどまらず、日本の生活や自国と日本の文化の違い、今後の進路にいたるまで、さまざまな話題で盛り上がりました。



新奨学生に証書を授与



修了生には記念のアルバムを贈呈



新奨学生の紹介



李 侑娜(リユナ)
中国
慶應義塾大学法学研究科
公法学専攻
(博士後期)

私は東アジアにおける地方自治制度や行政システムについて研究しております。今回はかめのり財団の奨学生として選ばれ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

将来教員の道を歩みたいと思っております。立派な学者になり、世の中に役に立つ研究をするのも大事ですが、私は心より学生を愛し、多くの学生に夢や希望を与え、正しい道へ導く良い先生になりたいです。その目標に向けて、まずこの3年間は自分の研究に集中し、博士論文を出し、支えてくださったかめのり財団の皆様にご報告できるように頑張りたいと思います。

自分の研究はこれから東アジアが迎える多文化共生社会における研究ですので、より多くの国の制度やシステム改革に役に立てればと思います。それから語学(日・中・韓)の強みも活かし、将来は国際的に活躍できる人材となり、沢山の人の世話になり、支えていただいた分、しっかり恩返しができるように頑張っていきたいと思っております。



蔡 珂(サイカ)
中国
千葉大学人文社会科学研究科
文化科学研究専攻
(博士後期)

私は近代教育史を専攻分野としており、修士課程では、日本近代にとって重要な人物である福沢諭吉の初等教育思想と、明治前期の教育政策理念をテーマにして研究しました。博士課程では、福沢は西洋に目を向ける前に儒学を学んでいたため、彼の教育思想と儒学の関係をより深く考察する作業も必要であると思います。また、中国や朝鮮を含め、この点について検討することによって、近代の東アジアが、教育を通じて西洋に対してどのような姿勢をとったのかという問題を再考し、新たな歴史像を解明することに繋がると思います。

これから、かめのり財団の奨学生として、より一層勉学に励みたいと思います。そして、将来、私の研究を通じて、東アジア諸国の相互理解を深めることができるように頑張りたいと思います。私を支援して下さった皆様方のご期待に添えるよう、社会に役立ち、国際友好に貢献できる者になれるように、日々精進して参りたいと思います。



陳 晨(チンシン)
中国
法政大学人文科学研究科
日本文学専攻
(博士後期)

修士課程では、私は『平家物語』における「娥皇女英」という中国の説話について研究しました。この説話は中国では、夫婦の間の深い愛情を詠んだものでしたが、日本の『平家物語』では、「禁忌」という新しい解釈が生み出されました。つまり、変容が起きたのです。『平家物語』には、他にも数多くの中国故事が引用されています。その中には、「娥皇女英」説話のように、日本独自の価値観で解釈され、本来とは違う意味で享受されている例があります。それゆえ、今後も『平家物語』諸本における中国文学の受容についてさらに考察を深め、当時の日本における中国文献の受容状況や変容について研究を続けたいです。

今後はかめのり財団の奨学生として、財団の皆様にも恥じぬように、誠意をもってこれから学業に邁進してまいります。将来は中国人に日本の古典文学の魅力を紹介し、古典文学における日中の関わりの深さについて啓蒙し、ひいては両国の友好関係のために努力していきたいと思っております。

修了生からのことば

未来をつなぐ修了生たち。4月からそれぞれの道を歩み始めました。

周 鑫 (シュウキン) / 中国

現在、一橋大学法学研究科(博士後期)に在籍

「感謝、感動、そして架け橋に」

3年前の授与式から、私がかめりのファミリーの一員となって、いろいろ体験しました。夏の研修交流会で、奨学生同士の皆と仲良くなって、忘れられない思い出を沢山作りました。札幌の生ビール、鳴門市の海の恵み、そして金沢の美しき金箔も、奨学生の研究報告と夜の飲み会とともに入り交じって、かけがえのない宝物として記憶に残されています。

今年はまだ来日6年目です。独占禁止法規制に興味を持ち、修士課程から今の博士後期課程まで、独占禁止法の比較法研究と中国現行法の問題点に関して研究を行ってきました。

奨学生としての3年間、かめりの財団の国際親善の理念に感動しています。私は財団の理念のもと、日中関係が悪化している現在だからこそ、どんな小さな努力でも試み、日中間の架け橋になり、日中間の学術交流に努力していきたいと存じます。



いと存じます。

私がこれから中国に戻って、大学の講師として就職することが決まったら、このかめり財団の皆様の優しさ、そして平和を愛する日本人の優しさを、ちゃんと自分の未来の学生達に伝えよう思っております。自分はこのかめりファミリーの絆を抱いて、これからもかめり財団の奨学生として、名に恥じないよう頑張っていきたいと思っております。



2013年夏の研修交流会での陶芸体験



姜 民護 (カンミンホ) / 韓国

現在、同志社大学大学院社会学研究科(博士後期)に在籍

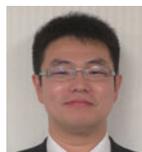
「奨学生としての3年、 これからの土台になる」

今、博論にて「韓国における親の離婚を経験した子どもに対する支援の在り方」について執筆中です。大学院での成果は、現場で応用可能な研究として深化させる予定であり、「学生への潜在能力の自覚機会の提供」を目標としています。自分にとって、韓国人大学生による日本社会福祉施設研修がそれです。今後は、日本人大学生による韓国社会福祉施設研修へと拡大することで、多くの大学生が自分の潜在能力を自覚できるよう助けとなり、この機会が日韓の架け橋人材の育成に繋がると期待しています。

いつも申し上げていますが、かめり財団は、私にとって一緒にいて楽しい仲間がいる居場所です。かめり財団奨学生としての3年間は、忘れられない思い出であり、これから歩んでいく人生の土台になる経験です。

OBOG からの便り

近況と心にある思いを綴ってくれました。



張 碩 (チョウセキ) / 中国

2013年～2015年 かめり財団奨学生

「ぶれない人生・日本語教育の道を歩み続ける」

2013年に大阪大学言語文化研究科、日本語・日本語文化専攻で言語学の研究をはじめ、2015年3月に修士号を取得することができました。同年5月に中国へ帰国し、6月より現在まで国際交流基金北京日本文化センターの専任講師として日本語を教えています。

かめり奨学生としての2年を振り返ると、1人の留学生として得るものが多かったです。私にとって、かめり奨学金は経済的な支援だけでなく、研究を続ける勇気と力を与えて下さった大切な宝物です。暑いのが苦手な私で

も、かめり奨学生になってから、夏が来るのを待ち望んでいました。夏の研修会で先輩方に自分の研究状況を報告し、研究面、生活面の相談ができるからです。先輩方からいただいたアドバイスはその時の研究と生活だけでなく、今の仕事にも役立っています。また、毎年のかめりフォーラムで各国からの生徒たちとコミュニケーションすることができ、また様々な分野の最前線で活躍されている方々のお話を伺うこともできました。

かめりフォーラム2015のゲストスピーチ

日本語教師としてデビュー



で、北原茂実さんが「ぶれない人生」というモットーを教えて下さいました。私にとっての「ぶれない人生」は「日本語教師としての人生」なのではないかとその時からずっと思っていました。日本語教師になりたいという夢のおかげで、かめり財団とつながることができ、またかめり財団のおかげでこの夢を実現させることができました。かめり奨学生としての2年間は短かったですが、財団の方、先輩方からいただいた多くの知恵と力を大切に、この日本語教育の道をぶれることなく歩み続けていきたいと思っています。

日本高校生「ふれあいの場」訪中事業

2016年3月、日本の高校生を対象に(独)国際交流基金 日中交流センターとの共催事業として「日本高校生『ふれあいの場』訪中事業」が実施されました。

国際交流基金日中交流センターでは、日本と中国の青少年交流を促進する事業の一環として、日本の高校生を1週間中国に派遣し、等身大の中国に触れてもらう機会を提供しています。第6回目となる今回は、かめのり財団との共催で2016年3月24日(木)～30日(水)の7日間、日本全国から集まった高校生12名・教員5名が、瀋陽(遼寧省)、長春(吉林省)、北京の三都市を回り、現地の高校生や大学生との交流活動を行いました。

瀋陽では、在瀋陽日本国総領事館を表敬訪問し、高校生たちは初めて耳にする外務省の海外での仕事に、興味津々の様子でした。その後、現地の日本語教育の現場を視察するため、東北育才学校を訪問しました。日本語の授業はすべて日本語のみで進行され、そのレベルの高さに日本側参加者は舌を巻いていました。お互いの国や故郷について紹介し合うなど、同世代の中国人高校生たちと活発な交流を行いました。

続いて訪れた長春では、日本の最新情報や日

中交流の機会を提供するため当センターが吉林大学に開設している「長春ふれあいの場」を訪問。日中の大学生による交流イベントに参加し、運営のお手伝いをしました。同イベントには長春で日本語を学ぶ長春日章学園高校の生徒たちも駆けつけて、一緒に日本文化体験コーナーを盛り上げてくれました。その夜、高校生たちはホームステイを体験し、中国式の温かいおもてなしを受けました。

参加した高校生は、「中国に対して少なからずネガティブな印象を持っていたが、来てみると『ポジティブ』な発見ばかりで、とても驚いた。メディアの報道を鵜呑みにするのではなく、自分の五感を使って感じることの大切さを痛感した」と話してくれました。



天安門広場



長春日章学園訪問

報告：国際交流基金 日中交流センター 浅田 雅子

ホーチミン市日本語教育国際シンポジウム

2015年9月、ベトナム・ホーチミン市で東南アジアの日本語教育のリーダーが集まり、グローバル人材の育成とつながるネットワーク、そして日本語教育の質的向上について討論しました。

ベトナムでは近年、日本語学習者数が急激に増加しています。一方、教師の不足、教師の質の向上の問題にも直面しています。一つの国だけでは問題を解決するのに十分とは言えません。そこで、東南アジアの日本語教育者間の情報交換の場として、「東南アジアの日本語教育の役割—グローバル人材育成とつながるネットワーク—」と題してのシンポジウムが2015年9月19日(土)～20日(日)の2日間、ホーチミン市統一会堂他にて実施されました。

1日目は講演、パネルディスカッション、分科会が行われ、ベトナム国内外の関係者の約400人が参加しました。特に、東南アジア9カ国から集まった日本語教育者によるパネルディスカッションは各国の日本語教育の状況を話し合うことができました。グローバル人材育成のために日本語教師の育成、ネットワーク作りについての改善策が討議されました。

2日目は東南アジア8カ国の学生による日本語スピーチコンテストでした。企業に優秀な人材を見せるとともに、良い学習者をさらに生み出していくためには、教師自身の努力、東南アジア各国の日本語教師が互いに助け合うこと、日本からの支援も大切であることを伝えることが目的でした。

シンポジウムで明確になったのは「日本語教育の発展を支えるために日本語教師の養成と研修が組織的に行われることが必須である」ということでした。参加者からは「講演、パネルディスカッション、コンテスト、心のこもったおもてなしなど、全ての点において感動の連続」「多くの方と交流でき、有益な情報を得られた」などの感想がよせられました。

シンポジウムで強くなった東南アジアのつながりを活かし、日本語教育の課題を少しずつ解決していきたいと思えます。

報告：ホーチミン市師範大学 カオ レ ユン チ

日本語トーク



日本語教育シンポジウム

かめのり地球青少年サミット 2016

2016年2月11日(木)から14日(日)までの4日間、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)にて、かめのり地球青少年サミット2016(Kamenori Earth Youth Summit 2016 [KEYS2016])を開催しました。香港中文大学(中国)とデ・ラ・サール大学(フィリピン)から学生と教授を招へいし、18名の大学生が『アジアの将来に向けた課題と展望 ~ワン・アジアを目指して~』のテーマのもと、アジアが抱える諸問題について議論しました。

「アジアの未来を見つめる」

KEYS2016はかめのり財団の創立者である康本健守氏の英語による挨拶から始まりました。かめのり財団創立のきっかけや理念の他、このセッションで多くの経験をし、異文化や他国の歴史の理解を通して広い視野を持った次世代のリーダーに育ててほしいとのメッセージをいただきました。その後早速、香港中文大学のブライアン・メルキュリオ教授による基調講演「TPP：アジアにおける安定性と予測可能性への影響」およびデ・ラ・サール大学のテレソ・トゥーラオ教授による講義「アセアン・東アジアにおける地域統合に向けた手段としての教育」を受けました。講演・講義では教授と参加者の間で様々な質疑応答が飛び交い、一般聴講の方々からの質問もあり、活発な意見交換の時間となりました。夕方の交流会でようやく緊張がほぐれたところで1日目は終了しました。

2日目はステファン・ナギ教授による講義「東アジアの統合?地域化への基盤としての環境協力」から始まりました。その後、バスで視察プログラムへ出かけました。多文化共生の観点から新宿区大久保を訪れ、コリアンタウンの散策と韓国料理を楽しみました。環境の観点から視察した板橋区立エコポリスセンターでは「ペットボトルでお茶を飲む」ことによる環境への影響について話し合いました。最後に渋谷区代々木上原の東京ジャーミーを訪れ、イスラム教徒の生の声を聞き、イスラム教についての理解を深めました。

メルキュリオ教授の講演



トゥーラオ教授の講義



3日目は早稲田大学アジア太平洋研究センター特別センター員の安藤裕子氏より講義「歴史の記憶の相克〜ヒロシマ・ナガサキをめぐる〜」を受け、その後は各グループに分かれ、翌日の発表に向けて準備を進めていきました。

最終日は政治・環境・教育・経済の4つのグループに分かれて研究発表を行いました。前日までグループ内での意見がまとまらず、寝る間も惜しんで作業をしているグループもありましたが、当日は皆これまでの努力の成果を発揮し、非常に完成度の高い発表となりました。

今回、国内外から集まった参加者は、KEYS2016で与えられた研究テーマとは異なる専攻を大学で学んでいる学生がほとんどでした。しかしそうした中でアジアの諸問題を自身の観点で捉え、多様なバックグラウンドを持った学生

同士が切磋琢磨しながら話し合うことで、課題に対する提案に柔軟性が生まれていました。このサミットを通して、アジアという地域に住む1人の人間として、共通の問題意識を持つことは我々の義務であり、そうした行動がアジアに生きる我々若者の未来につながっていくのだと実感しました。

報告：学生スタッフ 清水 淳史(九州大学)



エコポリスセンター視察

参加した大学生の声 横浜国立大学 レゴック バオ ヴィー(ベトナム人留学生)

普通の大学生生活では国際サミットに参加し、様々な国々から来た友達と一緒にアジアの教育・環境・政治・経済課題について討論することはめったにありません。かめのり財団のおかげで、このような貴重なプログラムに参加することができました。私は教育グループで「公教育システムと私教育システムの隔たりとその橋渡し」について取り組みました。グループディスカッションを通して、グローバルな問題を深く掘り下げるきっかけになり、初めて、自分でも皆の協力さえあれば本当にアジアのために役に立てると思えるようになりました。文化や価値観の違いの

せいか、ディスカッションでは意見が違いすぎて、大きい声を出してしまった時もありました。しかし、皆が同じ目標に向かって、同じアジアのファミリーとしてアジアを良くしようという熱意を持っているからこそ、違いを活かし、ダイバーシティに変換することができました。ディベートからそれぞれのメンバーがお互いに理解しあうことができ、非常に素晴らしいチームでした。国際交流に興味がある皆さん、是非このような機会を逃さないように、興味を持ったら一歩踏み出し、アジアのサミットの一員になってみてください。

詳細はかめのり財団ホームページでもご覧いただけます。
http://www.kamenori.jp/keys_jp.html

かめのり KEYS で 検索

講演会

「異文化理解の必要性」を主なテーマにした王敏理事（法政大学教授）の講演会を北海道登別明日中等教育学校にて開催しました。

2016年3月14日（月）、登別明日中等教育学校体育館において「宮沢賢治と漢字と日本語と国際交流～日中のお面比べ～」という演題でご講演いただきました。王敏先生のお話を聞くことができる貴重な機会ということで、中学3年生から高校2年生までの生徒全員を対象としました。

王先生は、狐の嫁入りを導入に、お面のルーツを日中の文献等から紹介してくださり、文化交流の土台となる教養が漢字により共有されていたことを指摘され、次に、狐から宮沢賢治の『雪

渡り』に話がつながり、宮沢賢治の愛読書であった『西遊記』から、賢治の中国、インドの文化の受容の在り方へと展開されました。そして、賢治の文学は対話による相互理解の重要性を念頭に置いたものであるということの中高生に分かりやすく話していただきました。

生徒は王先生の日本語の流暢さに驚き、自身の英語の不甲斐なさを振り返り、文化事象の考察における王先生の視野の広さに文化研究の奥深さを感じたようでした。

報告：札幌平岸高等学校 教諭 松山美彦氏

副校長先生へ著書を寄贈



第10回かめのり賞 募集案内

かめのり賞は、日本とアジア・オセアニアの若い世代を中心とした相互理解・相互交流の促進や人材育成に草の根で貢献し、今後の活動が期待される個人または団体を顕彰します。これまでに6個人・72団体を表彰しました。本年度も募集の受付を開始しましたので、多くの方からのご応募をお待ちしております。
応募締切：2016年9月16日（金）必着



第9回かめのり賞表彰式受賞者の様子



詳しい募集要項や応募用紙は、ホームページよりダウンロードできます。

第10回かめのり賞募集要項

<http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>

かめのり賞

で 検索

今後の予定

- 7月 ベトナム中学生日本語キャンプ2016
高校生短期交流プログラム（第9期生派遣・韓国）
ISAK サマースクール2016
かめのりスクール2016
- 8月 第3回 高校生カンボジアスタディツアー
にほんご人フォーラム2016
- 9月 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会
- 10月 第8回中学生交流プログラム（派遣・フィリピン）

＜ 編集後記 ＞

新たな仲間となった大学院奨学生は研究に専念し、修了生は社会に出て新たに挑戦する。KEYSでは短い期間で国籍を超え議論をし、発表を行うという挑戦と達成を見ることができた。仲間からの便りでも、過去財団に関わったプログラム参加生が世界各国で挑戦を続けている。弊財団は今年10周年を迎えた。チャレンジを続けるかめのり奨学生同様、次なる10年に向けて挑んでいきたい（松本）

発行人 / 西田 浩子

編集 / 松本 龍一

デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)

印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒160-0011 東京都新宿区若葉 1-22 ローヤル若葉 211

TEL : 03-3234-1694

FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp

URL : <http://www.kamenori.jp/>